

医学系研究に関する情報公開

福島県立医科大学会津医療センター 小腸大腸肛門科学講座では、本学倫理委員会の承認を得て、下記の医学系研究を実施します。関係各位のご理解とご協力をお願い申し上げます。

2020年11月 福島県立医科大学会津医療センター  
小腸・大腸・肛門科学講座 遠藤俊吾

【研究課題名】大腸癌化学療法症例における予後因子としての炎症性マーカーの有用性

【研究期間】2020年11月（承認後）～2021年9月

【研究の意義・目的】

非常に安価で、どこの施設でも評価可能な炎症性マーカーを用いて、切除不能大腸癌に対して化学療法を行っている症例の予後因子を探ることを目的とする研究です。好中球リンパ球比 (NLR)、リンパ球単球比 (LMR)、血小板リンパ球比 (PLR) の算出は非常に簡単で、その変化を評価するのも容易です。これにより、化学療法開始3ヵ月後の時点での化学療法による効果や予後が予測できれば、それ以降は、強力な化学療法を継続すべきか、有害事象を避けるために化学療法の強度を落として、緩和治療に向かうのが決定できます。

予後予測を行うことは、癌治療を受ける方の残された時間の使い方を決める上で有用な情報となるはずで

【研究の対象となる方】

2012年4月～2019年4月までに福島県立医科大学会津医療センター附属病院（前身の会津総合病院を含む）において、切除不能大腸癌に対して化学療法を行った方が対象となります。

但し、化学療法が3ヵ月以下の方、炎症性疾患に罹患していた方、併存疾患のため、ステロイドを投与されていた方、ほかの癌にも罹患していた方、末梢血評価時の1ヵ月以内に白血球を増やす薬剤を投与された方は、研究の対象とはなりません。

【研究の方法】

化学療法導入前と導入後3ヵ月の時点での採血結果のうち、白血球分画、血小板数、LDH、ALP、Albumin、CEA、CA19-9の変化を比較します。有意な変化を示した項目について、増減と全生存期間の関連を調べます。全生存期間と関連を持つ項目については、年齢、性別、Performance status、腫瘍占居部位、遠隔転移の部位と個数、病理組織分類、RAS status、原発巣切除の有無や、化学療法中の画像診断による効果判定、全経過の投与化学療法の種類と継続状況、全経過中での転移巣切除の有無をみます。さらには全生存期間、無増悪期間の検討から、選択された項目が予後因子となるかどうかを調べます。

【研究組織】

- 研究責任者

(所属) 福島県立医科大学会津医療センター小腸・大腸・肛門科学講座 (職) 教授

(氏名) 遠藤俊吾

- 研究分担者

(所属) 福島県立医科大学会津医療センター小腸・大腸・肛門科学講座 (職) 准教授

(氏名) 五十畑則之

(所属) 福島県立医科大学会津医療センター小腸・大腸・肛門科学講座 (職) 助手

(氏名) 松井田元  
(所属) 福島県立医科大学会津医療センター小腸・大腸・肛門科学講座 (職) 大学院研究生  
(氏名) 根本鉄太郎

【他の機関等への試料等の提供について】  
該当しません。

【本研究に関する問い合わせ先】

本研究に関する御質問等がございましたら、下記の連絡先までお問い合わせください。他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で研究計画書及び研究の方法に関する資料を閲覧できます。

〒969-3492 福島県会津若松市河東町谷沢字前田 21-2  
公立大学法人福島県立医科大学会津医療センター 小腸・大腸・肛門科学講座  
担当 遠藤俊吾

電話: 0242-75-2100 FAX: 0242-75-2568  
E-mail: s-endo@fmu.ac.jp

【試料・情報の利用を望まれない場合の連絡先】

試料・情報が当該研究に用いられることについて研究対象者ご本人又は代理人の方に御了承いただけない場合には、研究対象者とはせずに試料・情報の利用、提供をいたしませんので、下記の連絡先までお申し出ください。その場合でも研究対象者ご本人又は代理人の方に不利益が生じることはありません。なお、研究結果が既に医療系雑誌への掲載や学会発表がなされている場合、データを取り消すことは困難な場合もあります。

〒969-3492 福島県会津若松市河東町谷沢字前田 21-2  
公立大学法人福島県立医科大学会津医療センター 小腸・大腸・肛門科学講座  
担当 遠藤俊吾

電話: 0242-75-2100 FAX: 0242-75-2568  
E-mail: s-endo@fmu.ac.jp